C－40 袖の人間工学的研究

名古屋市立女短大　高橋春子　安成学園女短大　沢野幸子　瑞穂短大
鈴木昭子　愛知大学短大部　岡直子　大垣高校　○和田恵美子

目的　被服の人間工学的分析はすでに各方面からすすめられているが前年にひきつづき運動時の伸縮寸法と被服パターンの関係を腕について追求した。ここでは特に腕の運動時の伸縮寸法の計測より腕の運動に伴う袖丈と袖幅のゆるみについて検討した。

方法　被験者：成人女子5名　実験年月日：1971年6月～8月　以上の條件にて

① 被験者の右腕に長径（腕山側正線，腕下側正線，前腕中央線，後腕中央線）周径（腕相貫線，腕下付根囲，肘囲，手首囲，上腕筋最大囲，手骨筋最大囲等）の基準線を三菱ダーマトグラフで書き入れる。

② 直立両腕垂下の状態を基準とし，腕の上挙，側挙，前極，後極時の伸縮をマルケン式計測器を用いて計測した。

結果　腕の動作による皮膚面の伸縮について顕著な点をあげると周径は上腕筋最大囲，手骨筋最大囲での増加が多く，前者は最大7.2cm，後者は5.8cmである。長径は前腕中央線で収縮し，後腕中央線で伸張する。前者は最大8.8cmの収縮，後者は9.6cmの伸長である。これらの結果はドレスパターン製図における丈の設定及び丈と幅のゆるみの関係等の割り出しに活用したい。